

1. 2022年12月期 第117期 業績概要

2023年2月14日
日東精工株式会社
(証券コード 東証プライム:5957)



2022年3月
健康経営銘柄
2年連続選定

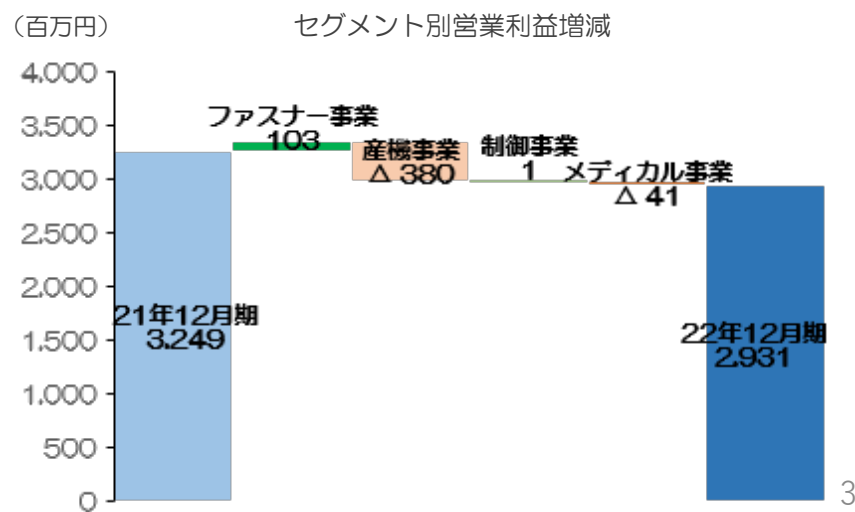
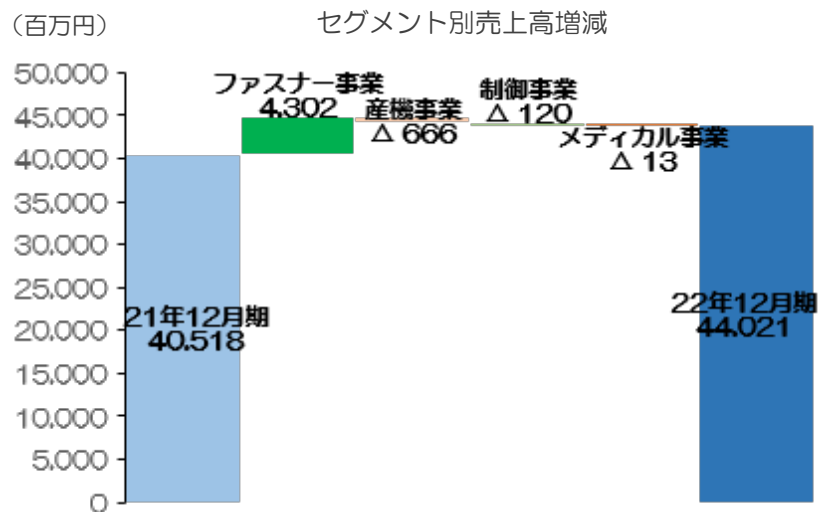
2022年3月
なでしこ銘柄
初選定

単位：百万円／％	21年12月期		22年12月期		前期比		22年12月期 業績予想比（2022年11月11日）		
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	予想金額	増減額	増減率
売上高	40,518	100.0	44,021	100.0	3,502	8.6	42,500	1,521	3.6
売上総利益	10,285	25.4	10,377	23.6	91	0.9			
販売管理費	7,035	17.4	7,445	16.9	409	5.8			
営業利益	3,249	8.0	2,931	6.7	△317	△9.8	3,400	△468	△13.8
経常利益	3,487	8.6	3,235	7.3	△252	△7.2	3,500	△264	△7.6
税金等調整前当期純利益	3,606	8.9	3,194	7.3	△412	△11.4			
親会社株主に帰属する当期純利益	2,200	5.4	1,828	4.2	△371	△16.9	2,200	△371	△16.9
一株当たり当期純利益（円）	59.63		49.50				59.54		

- 主要販売先である自動車関連業界における生産調整の影響を受けたものの、昨年4月に子会社化したケーエム精工、ピニングが売上拡大に貢献し、前期に引き続き過去最高売上高を更新。
- エネルギーや原材料価格の高騰、部品不足などの影響や、利益面で業績を牽引していた産機事業の設備投資の延期、凍結に伴う売上減少により、前年同期比減益。
- 海外は、一部で中国におけるロックダウンの影響を受けたものの、おおむね生産が回復。円安効果もあり、増収に寄与。

セグメント別売上高・営業利益（連結）

単位：百万円／%		21年12月期	22年12月期	前期比	
				増減額	増減率
ファスナー事業	売上高	27,896	32,199	4,302	15.4
	営業利益	1,545	1,648	103	6.7
	利益率	5.5	5.1		
産機事業	売上高	7,182	6,515	△666	△9.3
	営業利益	1,608	1,227	△380	△23.7
	利益率	22.4	18.8		
制御事業	売上高	5,416	5,296	△120	△2.2
	営業利益	156	157	1	0.7
	利益率	2.9	3.0		
メディカル事業	売上高	23	10	△13	△56.1
	営業利益	△61	△102	△41	—
	利益率	△256.3	△976.2		



単位：百万円/%	21年 12月期	22年 12月期	前期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	27,896	32,199	4,302	15.4
自動車	10,287	11,417	1,129	11.0
住宅・建築	4,752	6,927	2,174	45.8
電機・電子部品	4,971	5,192	220	4.4
雑貨	2,825	2,776	△49	△1.7
IT・情報機器	1,232	1,603	371	30.1
精密機器	1,080	1,143	62	5.8
医療	349	324	△25	△7.2
エネルギー関連	131	165	33	25.4
その他	2,269	2,652	384	16.9
営業利益	1,545	1,648	103	6.7

- ケーエム精工およびピニングのM&Aによる売上加算に加え、依然好調なEV関連の需要や、マレーシアや工場拡張のインドネシアの需要増が増収増益に寄与。

◆自動車

- EV関連では、主力のギザタイトやCPグリップの需要が増し、アルミタイトやギア部品なども好調に推移。
また、ケーエム精工の子会社化によりナットなどの売上加算やインドネシアの貢献により好調に推移。

◆住宅・建築

- ケーエム精工のドリルねじや協栄製作所などの売上加算により大幅増。

◆電機・電子部品

- 半導体不足による減産もコンタミ対策ねじのCPグリップやギザタイトなどの需要が堅調に推移。

◆雑貨

- ゲーム機市場は、半導体不足によるメーカーサイドの減産も、精密ねじなど高付加価値製品の需要増加により横ばい。

単位：百万円／％	21年 12月期	22年 12月期	前期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	7,182	6,515	△666	△9.3
自動車	4,293	3,890	△403	△9.4
電機・電子部品	924	789	△134	△14.5
エネルギー関連	634	327	△306	△48.4
IT・情報機器	139	147	8	5.9
住宅・建築	314	135	△179	△57.2
遊技機	54	64	10	20.2
雑貨	61	33	△28	△46.3
医療	6	3	△3	△43.0
その他	757	1,127	369	48.9
営業利益	1,608	1,227	△380	△23.7

- 自動車をはじめ半導体不足に伴う需要先の設備投資の凍結などの影響が大きく減収減益。
- 省人化対応、環境配慮の新製品を投入し、拡販体制強化で売上増、利益創出に向けて巻き返しを図る。

◆自動車

- CASE関連、EV車関連のねじ締め設備をはじめ引き合いは依然としてあるものの、世界的な半導体不足の長期化や一部工場稼働停止の影響を受け控えめな設備投資により低調に推移。

◆電機・電子部品

- 昨年より半導体設備の需要はあるものの、主要ユーザーの今期需要は昨年投資より限定的。結果、前年同期比大幅減。ただし、一昨年の水準を上回る。

◆エネルギー関連

- 昨年の特需の反動を受け、前期比大幅減になるも、一昨年の水準を上回る。

◆IT・情報機器

- 半導体不足による停滞感はあるものの、通信基地局関連、スマートフォン関連の需要が堅調に推移。

◆住宅・建築

- 省人化に向けたねじ締めロボットなどの引き合いは増加するも、前期比大幅減。

単位：百万円/%	21年 12月期	22年 12月期	前期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	5,416	5,296	△120	△2.2
化学・薬品	1,326	1,183	△142	△10.7
エネルギー関連	1,164	853	△310	△26.7
住宅・建築	553	548	△4	△0.9
自動車	365	367	2	0.6
電機・電子部品	204	305	100	49.4
造船	407	285	△122	△30.0
医療	24	134	109	456.1
その他	1,373	1,621	248	18.1
営業利益	156	157	1	0.7

- ・長引く半導体不足による需要先の生産調整などの影響を受けて減収増益となる。
- ・分析機器をはじめ海外での拡販強化に努め巻き返しを図る。

◆化学・薬品

- ・分析機器、流量計の需要はあるものの、半導体不足の影響を受け低調に推移。

◆エネルギー関連

- ・分析機器の需要はあるものの、半導体不足の影響を受け低調に推移。

◆住宅・建築

- ・地盤調査機「ジオカルテⅣ」への買い替え需要があるも売上高は横ばい。

◆自動車

- ・ナットの外觀寸法などを検査する部品検査装置「ミストル」や日東精工アナリティックの分析機器などの設備需要があるものの、前期比では横ばいとなる。

◆電機・電子部品

- ・半導体不足の影響も流量計や分析機器などの需要が好調に推移し大幅増。

◆造船

- ・海運関連の燃費性能規制により流量計などの需要は高いものの、前年同期比大幅減。

単位：百万円/%	21年 12月期	22年 12月期	前期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	23	10	△13	△56.1
医療	23	10	△13	△56.1
その他	—	—	—	—
営業利益	△61	△102	△41	—

◆医療

- 「フリーレッド」は、引き合いがあるものの、本採用には至らず。コスト低減など市場ニーズに合わせた改良を行うとともに販社との情報交換による拡販体制を強化に努めた。
- 「医療用生体内溶解性高純度マグネシウム」は、一貫製造設備の整備並びに臨床試験に向けた試料の製作、性能試験を進め、上市に向けた早期の製品化の取り組みを推進。

2022年12月期 第117期(連結)貸借対照表

単位：百万円／％	21年12月期		22年12月期		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
資産の部						
流動資産合計	32,646	64.1	34,342	64.3	1,696	5.2
現金及び預金	11,415	22.4	9,098	17.0	△2,316	△20.3
受取手形・売掛金・電子記録債権	12,084	23.7	13,986	26.2	1,902	15.7
棚卸資産	7,926	15.6	10,081	18.9	2,155	27.2
固定資産合計	18,277	35.9	19,065	35.7	787	4.3
有形固定資産	13,092	25.7	14,085	26.4	993	7.6
無形固定資産	1,281	2.5	1,146	2.1	△134	△10.5
投資その他の資産	3,904	7.7	3,833	7.2	△71	△1.8
資産合計	50,924	100.0	53,408	100.0	2,484	4.9
負債の部						
流動負債合計	13,675	26.9	14,601	27.3	926	6.8
支払手形・買掛金・電子記録債務	8,069	15.8	9,015	16.9	945	11.7
短期借入金（一年以内返済の 長期借入・社債含む）	2,610	5.1	2,436	4.6	△173	△6.7
固定負債合計	4,546	8.9	4,304	8.1	△241	△5.3
負債合計	18,221	35.8	18,906	35.4	684	3.8
純資産の部						
資本金	3,522	6.9	3,522	6.6	—	—
資本・利益剰余金	26,993	53.0	28,208	52.8	1,215	4.5
自己株式	△1,254	△2.5	△1,246	△2.3	8	—
純資産合計	32,702	64.2	34,501	64.6	1,799	5.5

単位：百万円	21年12月期	22年12月期		
	金額	金額	増減額	増減率
営業活動によるCF ※①	3,650	999	△2,650	△72.6
投資活動によるCF ※②	△993	△1,987	△993	—
（フリーCF） ※①+②	2,657	△987	△3,644	—
財務活動によるCF	△704	△1,301	△596	—
現金及び現金同等物の増減額	2,136	△2,129	△4,266	—
現金及び現金同等物の期首残高	8,299	10,435	2,136	25.7
現金及び現金同等物の期末残高	10,435	8,305	△2,129	△20.4

2. 2023年12月期 第118期業績予想

本資料に掲載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によりこの見通しと異なる場合があります。

単位：百万円／％	22年12月期		23年12月期（予想）		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	44,021	100.0	46,500	100.0	2,478	5.6
営業利益	2,931	6.7	3,500	7.5	568	19.4
経常利益	3,235	7.3	3,700	8.0	464	14.4
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,828	4.2	2,200	4.7	371	20.3
一株当たり当期純利益（円）	49.50		59.54			

- 半導体不足の影響は残るものの、活況なEVやECU関連など自動車業界の需要増加に加え、コロナ禍からの脱却による需要の増加を見込み増収を予想。
- ファスナー製品は、EV化・軽量化の流れにより、コンタミ対策の機能ねじの需要増加に加え、電機・電子部品業界向け樹脂用ねじ製品なども好調に推移すると予想。
- ねじ締め機関連では、活況な自動車業界のCASE関連設備の受注に向けた販売体制強化を図り、売上増加を見込む。
- 分析機器関連では化学・医薬品・食品、自動車、エネルギー業界の需要増、検査機関連では省人化や自動化のニーズにより、堅調に推移する見込み。
- メディカル事業は、「医療用生体内溶解性高純度マグネシウムインプラント」の製造設備の整備並びに非臨床試験、臨床試験や、医療機器開発・拡販に向けた販社との連携強化に努める。
- 欧州市場における販売拡大や非日系ユーザへの拡販を推進し、当社グループ内における海外販売拡大に努める。

セグメント別売上高・営業利益予想（連結）

単位：百万円／%		22年12月期	23年12月期 (予想)	前期比	
				増減額	増減率
ファスナー事業	売上高	32,199	34,160	1,960	6.1
	営業利益	1,648	2,090	441	26.8
	利益率	5.1	6.1		
産機事業	売上高	6,515	6,835	319	4.9
	営業利益	1,227	1,380	152	12.4
	利益率	18.8	19.5		
制御事業	売上高	5,296	5,410	113	2.2
	営業利益	157	130	△27	△17.6
	利益率	3.0	2.5		
メディカル事業	売上高	10	95	84	808.5
	営業利益	△102	△100	2	—
	利益率	△976.2	△105.3		

